

真言密教を中心とした聖教世界の研究プロジェクト

川嶋將生・松本郁代

平安京遷都以来、1200年以上の歴史をもつ京都には、現在でも多数の寺社が存在する。かつて世俗的な権力や宗教的権威を誇示していた真言宗寺院には、経蔵や宝蔵に僧の修学や密教修法など関する聖教（しょうぎょう）が多数所蔵されていた。本プロジェクトでは、財団法人藤井永観文庫が所蔵する資料約400点をデジタルアーカイブし、また、100点余ある聖教関係の内容を検討して、京都における真言密教に関する聖教の特質を明らかにする。また、京都アート・エンタテインメント創成研究のコンテンツのうち、「宗教・思想史」分野の一翼をにない、かつ「芸能史・舞台空間」とも連動する。

1. 藤井永観文庫について

財団法人藤井永観文庫は、立命館大学出身の故藤井孝昭氏（1913～83）が生涯かけて収集された古美術品のコレクションで、氏の没後の1984年、コレクションの散逸を惜しまれたご遺族によって財団が設立され、その保全に力を尽くされてきたものである。

藤井永観文庫には、現在、古文書を中心

として400点余のコレクションが所蔵されている。財団による内容分類は、宸翰、墨跡・古筆・古文書、経巻、古典籍・刊本、仏画、絵画、工芸品、衣装裂、拓本となっているが、この分類自体は内容を十分に吟味して行われたものではない。したがって本サブ・プロジェクトでは、1点1点の内容の検討を行い、京都国立博物館で採用されている分類をもとに、改めて分類しなおす作業を行った。ただし旧分類と対照できるように配慮した。

2. 資料の検討

内容の検討にあたっては、資料の真贋はもとよりのこと、原本か写かなどの判断をするための作業を行った。また藤井永観文庫に所蔵される聖教類には、箱書などから、かつて東寺（観智院・宝菩提院）に所蔵されていたものが、何らかの理由によって外部に流出し、藤井永観文庫の所蔵に帰したと考えられるものが多く存在している。そのため、本プロジェクトでは、これらの資料が流出本であるか否かの検討を行った。ただし、最終的な事実確認と伝来の有無の判断は、東寺宝物館の判断に任せ、現在の状態からできる限りの検討を加えた上で、



【2003・11/18 京都新聞掲載】

確実に旧東寺伝来のものとして認定できた聖教は、現在のところ約二十点を数える。引き続き調査を行いたい。

また、かつて東寺長者の住房であった醍醐寺にも、東寺と共通する聖教が多数所蔵されている。従って、藤井永観文庫に所蔵されている聖教類の検討にあたっては、醍醐寺所蔵の聖教との比較・検討も併せて行っている。

3. 藤井永観文庫とアーカイヴィング

現在、藤井永観文庫に所蔵されている東寺観智院や東寺宝菩提院など、東寺の院家（いんげ）にもともと伝来していた聖教のほとんどは、東寺に所蔵されていた当時の‘有り姿’のまま藤井永観文庫に伝えられたのではなく、掛幅に表装され、裏書や紙背がみえない状態となっている。そのため、本来は一本の作品（オリジナル）であったものが二つ三つに分けられ、別々の掛幅に二本、三本と表装し直されているものもあり、また、本来は、オリジナルと同じ分類であるべきものが、表装された直した内容によって、一本は絵画に、裏書のもう一本は書跡にと、分類がオリジナルの分類とはぐれ、異なってしまう事態が生じている。

これらの表裏関係については、裏書の文字が表に薄く残っている部分を、デジタル画像を反転されるなどして解析作業を進め、部分部分を照合させながら復元していく作業を進行中である。なお、これらの成果は、2004年度の展覧会で公にする予定。

本プロジェクトでは、オリジナル（‘有り姿’）と異なる加工（表装などに代表される）が施された藤井永観文庫所蔵の資料に対しては、文化財とコレクション、という二つの観点から措置し、原資料に対する理解を進めている。

つまり、このような性質を持つ藤井永観

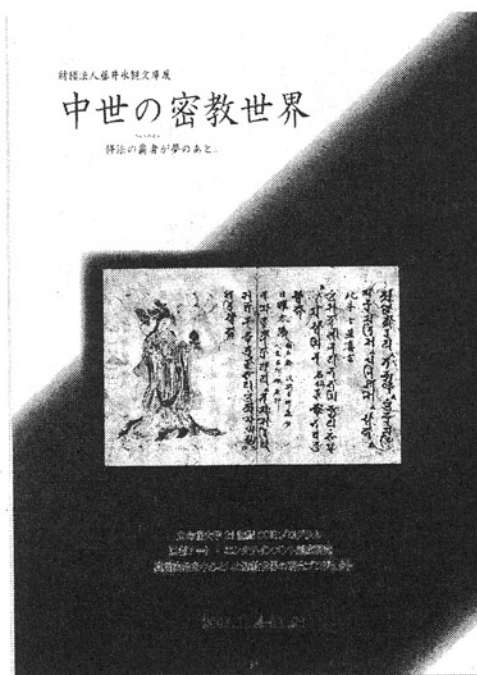
文庫所蔵の資料のアーカイヴィング行為の前提には、資料の収集と永久保全が挙げられるが、これらのデジタル技術に加え、学術的な資料として信用されるアーカイブ資料を構築していくためには、本文庫の場合、伝来元から外部に流通し、何らかの加工が施された資料を、オリジナルの‘有り姿’にできる限り復元し、それを提示していく、ということも大事な作業であると考えている。基礎データを握る情報発信者としての責任は、重大と考える。

継続的にこれらの作業と調査を行っていききたい。

4. 展覧会の開催

2003年度の成果報告の場として、2003年11月4日から28日の間、立命館大学アート・リサーチセンター展示室において「中世の密教世界～修法の覇者が夢のあと。」と題した展覧会を開催した。

展覧会では、全体テーマに対し、全作品20点を「密教の覇者」「修法の現場」「王



【展覧会配布図録・表紙】

No.	作品名	形状	材質	寸法(㎝)	制作年
201918171615	聖徳太子像 聖徳太子御像 聖徳太子御像 聖徳太子御像 聖徳太子御像 聖徳太子御像 聖徳太子御像 聖徳太子御像 聖徳太子御像 聖徳太子御像	二冊 一冊 一冊 一冊 一冊 一冊 一冊 一冊 一冊 一冊	紙 紙 紙 紙 紙 紙 紙 紙 紙 紙	縦二五・七 縦二五・七 縦二五・七 縦二五・七 縦二五・七 縦二五・七 縦二五・七 縦二五・七 縦二五・七 縦二五・七	室町時代 鎌倉時代 鎌倉時代 鎌倉時代 鎌倉時代 鎌倉時代 鎌倉時代 鎌倉時代 鎌倉時代 鎌倉時代
14131211109	王法弘法相依の軌跡 後深草天皇宸翰消息 後深草天皇宸翰消息 後深草天皇宸翰消息 後深草天皇宸翰消息 後深草天皇宸翰消息 後深草天皇宸翰消息 後深草天皇宸翰消息 後深草天皇宸翰消息 後深草天皇宸翰消息	二冊 一冊 一冊 一冊 一冊 一冊 一冊 一冊 一冊 一冊	紙 紙 紙 紙 紙 紙 紙 紙 紙 紙	縦八・二 縦八・二 縦八・二 縦八・二 縦八・二 縦八・二 縦八・二 縦八・二 縦八・二 縦八・二	室町時代 鎌倉時代 鎌倉時代 鎌倉時代 鎌倉時代 鎌倉時代 鎌倉時代 鎌倉時代 鎌倉時代 鎌倉時代
8	修法の現場 北江抄 北江抄 北江抄 北江抄 北江抄 北江抄 北江抄 北江抄 北江抄	一冊 一冊 一冊 一冊 一冊 一冊 一冊 一冊 一冊 一冊	紙 紙 紙 紙 紙 紙 紙 紙 紙 紙	縦一〇・五 縦一〇・五 縦一〇・五 縦一〇・五 縦一〇・五 縦一〇・五 縦一〇・五 縦一〇・五 縦一〇・五 縦一〇・五	室町時代 鎌倉時代 鎌倉時代 鎌倉時代 鎌倉時代 鎌倉時代 鎌倉時代 鎌倉時代 鎌倉時代 鎌倉時代

のと推定される醍醐寺の僧深賢による「深賢書状」の内容から、『平家物語』の成立を考察するうえで重要な資料であったことが指摘されていた作品も展示しており、歴史学や宗教研究の関係者以外にも、文学研究分野においても関心を引いた展覧会となった。また、この書状については新聞でも取り上げられた(「産経新聞」2004・11/3 付)。

藤井永観文庫所蔵資料については、今後も引き続き内容の検討を行い、展覧会も毎年、開催し、図録も発行する予定となっている。

【展覧会出品目録・図録より】

法弘法相依の軌跡」の三区分に大別し、これらの聖教関係資料を展示した(前掲出品リストを参照)。また、全作品の画像と解説を付した図録を作成し、松本郁代(COEポストドクトラルフェロー)による論説「写本の句一聖教の祖本と写本」を掲載した。なお図録は観覧者に無料配布した。

展示作品は、平安時代の「後七日御修法請僧交名」(一卷)が年代的にもっとも古く、以下、鎌倉時代が10点、南北朝時代が1点、室町時代が6点、江戸時代が2点の聖教を展示した。

作品のほとんどは、今回の展覧会によってはじめて公にされたものである。展示作品は、聖教という性格上、地味なものであったが、資料の質の高さや未公開であった作品の展示、特に、従来藤井永観文庫所蔵の作品として著名であった「かるた遊び図」や「室内遊楽図(加賀屏風)」などの風俗画以外に、今回のような宗教関係のものが所蔵されていたという事実を学界に示した点も併せ、専門家の高い評価を得ることができた。

作品のなかには、建長3年(1251)のもの



【図録内容の一部】

5. 密教と芸能

ところで真言密教の研究は、宗教関係の分野にのみとどまるものではない。たとえば琵琶灌頂や和歌灌頂といった秘伝の伝授形式があったように、それは芸能伝承とも深く関わるものであった。秘伝については森末義彰氏の「しかしその発端は、密教の奥秘を伝授する伝法灌頂や面授口訣にあった」とするのが、一般的な理解であったが、その考えを否定する意見もある。密教が芸能の伝承に何らかの影響を与えたとすれば、それは伝法灌頂という相伝の形式においてである、との考えである(この点については、別に(芸能の伝承の項で改めて触れることにしたい)。

藤井永観文庫の中には、紙背文書に収められた鎌倉時代の雅楽資料や、また音楽史上の資料となる音符付のお経なども所蔵されている。それらについては、今後機会をみて紹介することにしたいが、これらの資料の存在は、宗教と芸能とはけっして無関係なものではなかったことを示している。それどころか、宗教儀式を荘厳化するうえでは、芸能がきわめて重要であったし、なによりも、宗教儀式を基盤として日本の芸能は発展してきたのであった。そうした意味では、宗教と芸能は密接な関係をもっていたのである。

以上の意味からも、本サブ・プロジェクトは、「芸能伝承」のサブ・プロジェクトとも深い関連をもつものであり、次年度以降はこの点も踏まえ、作業を深めていきたい。